

特集：国際保健における人材養成

アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体（APACPH）の活動

林 謙治

Activities of Asia-Pacific Academic Consortium of Public Health

Kenji HAYASHI

1. APACPHとは

APACPHはAsia-Pacific Academic Consortium of Public Healthの略称であり、通常エーパックと呼ばれるアジア・太平洋地区の公衆衛生学校連合体である。連合体はアジア・太平洋地区の公衆衛生水準の向上を目指す目的で1984年に設立され、当初5つの公衆衛生学校をもって出発している。その歴史は16年経過したことになるが、創設にあたってリーダーシップをとったのは前ハワイ大学公衆衛生学校長であったジェロルド・マイケル氏(Jerrold Michael)であり、ハワイの地理的立場もあってかねてからこの地域の問題に深い関心を寄せていた。

当時、アジアでは公衆衛生分野の人材不足から公衆衛生学校設立の機運が高まっており、したがって連合体の活動目的は時代の要請に沿って各学校の教育水準の向上を主要な目標としてきた。具体的には共同研究を通じてティーチング・スタッフの知識、技能の向上をはかり、さらにカリキュラム開発をしてきた経緯がある。そのほか教授陣の交換、留学生の相互受け入れなども盛んに行われてきた。各国の公衆衛生の重要課題についても議論を重ね、その結果を要約した上で当該政府に政策提案を行ってきた。これらの一連の活動を基盤にWHO、UNICEFその他の国際機関とも連携して“Health for All”の目標達成に協力してきた。以上の活動を支援するツールとして毎年学術集会を開催しており、また学術雑誌としてAsia-Pacific Journal of Public Healthを年2回発行している。本誌はアジア地区における公衆衛生分野の唯一の国際英文雑誌であり、Index Medicusにも収録されている。

2. APACPHの構成メンバーと機構

APACPHのメンバーは基本的には学校単位の加入であり、先にも述べたように設立当初は5校でスタートしたが2000年1月現在では16カ国から40校が参加している。アメリカからアジアに関心のある3校、すなわちハワイ大学公衆衛生学校(School of Public Health, 以下SPH)、ジョージ・

ワシントン大学SPH、チューレン大学SPH（熱帯医学を含む）である。オーストラリアの公衆衛生学校からカーチン大学、シドニー大学、クインズ大学、ディーケン大学の4校である。日本からは国立公衆衛生院、東大（国際保健）、琉球大（保健学科）、女子栄養大の4校である。韓国はソウル大と延世大、中国は北京大学、上海大学、香港中文大学はじめ10校、台湾は台湾大学と台北医学院の2校である。その他東南アジアの主要校を挙げるとフィリピン大、インドネシア大学、シンガポール大学、マレーシア大学、タイのマヒドール大学等がある。

メンバーが増加につれ運営が複雑になったため2年前から4つの地区に分け、それぞれの地区にリージョナルセンターを置いており地区内の活動を推進している。アメリカ地区においてはハワイ大が担当し、オーストラリア及び東南アジア地区はカーチン大、中国地区は北京大、その他の東アジア地区（日本、韓国、台湾）は東大がリージョナルセンターとなっている。内部運営機構は会長（President）以下副会長2名、事務局長1名、リージョナルセンター長4名からなる執行部で構成され、いずれも任期制である。現在国立公衆衛生院が会長校であり、筆者が担当している。

3. 学術活動

1) 学術総会

原則としてメンバー校の中からあらかじめ主催校を決め毎年1回学術総会を開催している。執行部会は総会開催時に合わせているほか、もう一回開いているので年間計2回になる。総会時以外に開く執行部会に合わせて学術集会の開催申し出があるので年2回の学術集会が開かれることもある。表1に最近開かれた学術集会のテーマを列挙した。日本では過去東大2回、琉球大1回総会を開催した。WHO等国際機関からも時々講演に来ていただいている。

2) 学術雑誌等の発行

冒頭で述べたように学術雑誌Asia-Pacific Journal of Public Healthを年2回発行している（別図）。公衆衛生の性格上内容は多岐にわたるが、各国の事情を知る貴重な文献である。査読制度は確立されており、編集は国立マラヤ大学

ASIA-PACIFIC JOURNAL OF PUBLIC HEALTH



Review

- Ultraviolet Radiation and Cataract — A Review 57
Liju Chu Hayashi, Eiji Yano

Original Articles

- Birth and Empowerment: A Qualitative Study of the Childbirth Experience of Filipino Migrant Women in Brisbane, Australia 64
Donald E Stewart, Vibhavari Das, Melissa Seibold

- Attitudes Towards Abortion Among Married Women in Shanghai 70
Li Ling, Kenji Hayashi, Ling Wang

- Influence of Low Birth Weight on the Intellectual Performance of Children at Entry to First Year of School 75
Shyamali Dharmage, Dulitha N. Fernando



- Representativeness of Three Survey Methods in Ethnic Health Research 100
Chris Rissel, Louisa Jorm, Jeanette Ward

- Demographic Impact on Environment - A Case Study Focussing on CO₂ Emission in China 81
Kenji Hayashi, Jianqun Gao

- Profile of General Practices in Malaysia 88
Khoo Ee Ming, Christina Tan Phoay Lay

- Human Rights Issues and Health Practices 94
Donald E Stewart



- Health Research: A Tool for Social Justice and the Poor 106
Sitaleki A Finau

- List of Reviewers 111

- Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Representatives, Member Institutions, and Addresses 1997 112

- Instructions for Authors 116

が担当している。メンバー校でなくても個人・機関購読が可能であるので連絡先と申し込み書式を本文の最後に添付した。なお、これとは別にReview誌の発行を現在検討しているところである。

雑誌以外ではメンバー校がモノグラフを企画し、APACPHを通して寄稿を募ることがある。最近ではマラヤ大学が1996年に“Issues and Challenges of Public Health in the 21st Century”を発行しており、国立公衆衛生院が1997年に“Health care System in Asian-Pacific Region”を発行した。後者は現在アメリカ及びオーストラリアの加盟校で学生の国際コースで利用されている。

4. その他

APACPHではこの地域の公衆衛生で多大な貢献をなした人に業績の内容によって4つの賞を贈呈している。

1) McLaren 賞

故日系アメリカ人Kazue K. McLarenハワイ大学教授はハワイをはじめアラスカ等に居住するマイノリティやアジア・太平洋地区の人々の健康問題に尽力したことにちなんで本賞が設けられた。今までの受賞者は保健行政分野やWHO等国際機関で活動が著しかった方に送られている。この中に大臣級の方も数名含まれている。

2) APACPH Public Health Recognition Award

本賞は公衆衛生教育・研究に貢献した人を対象としている。受賞者の多くは公衆衛生学校の学部長もしくはそれに相当する方である。

3) APACPH Excellence in Leadership Medallion

本賞は立法府において健康問題で著しく貢献した人を対象としている。アメリカ上院議員Edward Kennedyは1990年

に受賞している。

4) APACPH Medal of Merit

本賞はAPACPHの活動に貢献した人を対象にしている。

以上APACPHについて簡単に紹介したが、アジア・太平洋地区の公衆衛生に興味のある方あるいはこの地区のネットワークづくりに関心ある方、団体個人を問わずメンバーの加入を歓迎いたします。国内からの申し込みは国立公衆衛生院（林 謙治 Fax 03-3446-9247）もしくは東大国際保健研究科（梅内 拓 Fax 03-5841-3637）までご連絡ください。

表1 最近の学術総会テーマ

年	テーマ	開催地
1994	公衆衛生教育改革	北京
1995	ヘルスプロモーション	シドニー
1995	老人のケア	台北
1996	外国人労働者の健康政策	バンコック
1997	思春期のセクシュアリティ	ウランバートル
1997	21世紀の健康問題	パース
1998	循環器疾患のコントロール	ニューオリンズ
1999	健康の確保	東京

Asia-Pacific Journal of Public Health

Subscription Form

The Asia-Pacific Journal of Public Health is a journal focussing on child survival, primary health care, and health policy issues of the Asia and Pacific region, published twice a year.

Annual subscription rate: US\$50

YES! I would like to subscribe to the Asia-Pacific Journal of Public Health

My payment is by enclosed bank draft or money order made payable to university of Malaya APJPH Account.

Name _____
(surname/family name) (first name)

Address _____

Please send this form and payment to:

Asia-Pacific Journal of Public Health
C/o Office of the Dean
Faculty of Medicine
University of Malaya
50603 Kuala Lumpur Malaysia